

作業分担を明確化

[農業家族経営協定調印式]

11月4日、長島町役場指江庁舎2階大ホールで、作業分担を明確にし、お互いが協力しながら経営に取り組む、農業家族経営協定調印式が行われました。

今回調印したのは、浦底集落の浦底初男さん、悦子さん、孝行さん一家、潟集落の吉川秀記さん、妻の絹代さん夫妻、伊唐集落の丸橋松志さん、喜保子さん夫妻の3組です。

この日は、川添健町長、山口正成農業委員会会長の立ち会いのもと、家族経営協定書へ調印し、それぞれ今後の抱負を述べ、決意を新たにしました。

今回、協定した浦底さん一家は、繁殖牛70頭を主体に水稲との複合経営をされ、次男の孝行さんが農業大学を卒業と同時に後継者として農業経営に参入することとなったため協定を結びました。

吉川さん夫妻は、長年ゴチ網漁などの漁業者でしたが、昨年の3月から漁業を休止。20年程前から少しずつバレイショやさつまいもなど露地栽培を始め、今後の農業展開の方向として家計と農業経営の分離を図ろうと調印しました。

丸橋さん夫妻は、伊唐島で農地集積などにより経営規模を拡大し、バレイショやさつまいもなど露地栽培を主体に農業経営に取り組み、今後もお互いの役割を明確化するとともに安心安全な農産物の生産に努めようと協定を結びました。



↑浦底集落の浦底初男さん、悦子さん、孝行さん一家（前列3人）



↑潟集落の吉川秀記さん、妻の絹代さん夫妻（前列2人）



↑伊唐集落の丸橋松志さん、喜保子さん夫妻

第9回水産業振興シンポジウム 長島ヒジキよみがえれ

本町の水産業をますます発展させようと、第9回水産業振興シンポジウムが11月11日、長島町開発総合センターで開催されました。

このシンポジウムは1年おきに開かれ、この日は県内外の漁業関係者ら約300人が出席しました。

今回は、特に長島本島西海岸側の磯焼けにより激減したヒジキを復活させようとヒジキ養殖をテーマに、養殖方法や種苗生産に関する報告、パネルディスカッションが行われ、関係者らは耳を傾けていました。

この日は、町水産種苗センター職員のエリカ佳さんが、2007年から獅子島で行っている試験養殖について話し、使用済みの消防ホースを種苗生産に利用していることなどが報告されました。

このほか、先進地・大分県の担当者からは、開発した2種類の養殖方法、鹿児島県の担当者からは、種苗量産技術の研究について紹介がありました。会場では、試験養殖に取り組み獅子島の漁業者からの質問や活発な意見などが出されていました。



→ヒジキ養殖の発表に耳を傾ける関係者ら